

京都総評青年部ニュース

発行： 京都総評青年部

～第45号～

2007年6月14日(木)

TEL . 075 - 801-2308

FAX . 075 - 812-4149

NO!

青年労働者の使い捨て

6月12日、京都職対連（京都労災職業病対策連絡会議）が「考えよう！青年の働き方と過労死」というつどいを開催しました。

部屋を埋め尽くすほどの大盛況で70人の参加があり、仲間の実態を共感していました。

京都総評青年部からは、奥西常任委員が発言をしました。



会場には、入りきれないほど人が

6年前の6月16日、中田衛一くんという22歳の青年が、過労死をしました。

そして12日、ご両親が勤務先のトステム綾部を京都地裁福知山支部に提訴をされたことをきっかけにこのつどいが開催されました。

参加者は、中田くん



おなじみの中田進先生の講演もありました

をはじめとする多くの若者が、劣悪な労働環境の下に無権利状態におかれていて、これを変えていかなければならない。などと感想をよせていました。

競争ばっかりの生き方を脱皮したい！

「仲間をふやす事は楽しいことなんだ」

奥西常任委員の発言を紹介します。

私は、1年ほど大阪の印刷会社で営業として勤めていました。当たり前のように12時近くまで残業という毎日。一つ仕事を終わらしても、それで帰れるわけではなく次の仕事が残っているの、がんばる気を次第に失い、そしてその仕事を辞めました。

辞めた直接の原因は上司と折り合いが悪かったことです。仕事がうまく回らないことが増えて、深夜

残業の続いたところに、どうしても集中力が保てず大きなミスをしました。そのことを一方的に責められたのです。

**働きすぎは人間を
追いつめる**

ある朝起きたときどうしても会社に行けませんでした。

「僕は仕事に行けない」ということがはっきりしたその瞬間にすべてが終わった気がして、どうでもよ

くなって会社と反対方向の電車に飛び乗りました。気がついたら東京。東京の公園で野宿したりネットカフェに寝泊りしました。俗に言う失踪というやつです。「その程度のことで...」と今は思うけど、そのときは出口のないところへ追いつめられた気分でのんの明るい展望も描けませんでした。働きすぎは人間を追いつめるということだと思います。

**労働組合でたたかう
という道を選ぶ**

僕は今、労働組合でたたかうという道を選びました。

でも、そうしない人が多い。告発されていない実態のほうがはるかに多く、ほとんどは闇の中。これも青年の働き方の異常がなかなか認知されない一因になっていると思います。

<右ページへ>

<左ページのつづき>

「景気が回復した」なんてことは青年の実感と何の関係ありません。青年の動き方の深刻さはなんら改善されてないからです。裁量労働制の拡大、成果主義賃金やWEで大変な状況はまだまだ続きます。そういう意味では僕自身もなかなか簡単には明るくならないですが、労働組合の活動をやるようになって最近ひとつだけ気づいたことがある。「明るくなるためには仲間が必要」

青年大集会に行つて

先日東京明治公園で開催された全国青年大集会はそのことがはっきりわかる集会でした。

ステージではネットカフェに2年間住んでいるという人や、青年の貧困を救済する運動をやっているNPOの人などの発言がありました。

その中の一人、松下プラズマの不当解雇に対して裁判闘争をやってる吉岡さん、自分のやっていることに何の迷いもない気迫を感じました。不当解雇や残業代未払い...たちむかう相手は大きいし、実態は厳しいのに「世の中は変えられる」という自信に満ちていました。ともにたたかう仲間の存在が大きいのだらうと思いました。僕もあそこにて楽しかった。

いっぱい集まって声を上げているという事実だけでものすごく元気が出ました。

立場の違いを乗り越えて共感する事は難しいけれど

学校にいる頃から競争させられ続けてきた僕ら青年世代は「仲間」を感じられない人が多い。置かれている立場の違いを越えて共感しあうことは僕らにはなかなか難しい。いま取り組んでいる最低賃金生活体験の運動はもちろん最賃引き上げが課題だけれども、貧困を知ることです。そういった立場の人たちとつながれる、仲間になれる可能性のある運動です。また体験をやっている人の中にはいろんな職種、労働条件、収入の人たちがいる。そういった人たちの共同で、産別の枠を越えて運動を作ることが重視されています。そうやって「仲間」が増える。労働運動とは本来そういうもので、だからこそ楽しいものなんだと思っています。

青年にとっては競争ばかりしていた生き方から脱皮をして「仲間」を見つけたおすという意味があるんだと思います。

とはいえ労働組合はまだまだ小さい。今後もたたかう仲間を広げる運動に力を尽くしていきたいです。

07最賃伝説。～第4章～ データ② (6月13日現在)

シングルコース

平均年齢28.1歳
1日あたり平均898円で生活中。

親と同居コース

平均年齢25.6歳
1日あたり平均1,647円で生活中。

エライ人へ聞きに行こう!

日時：6月16日(土)午前9時 Start

集合場所：ラポール京都駐車場

募集人数：約10名(移動する車の関係。)

訪問先：西田昌司さん(自民党)

松井孝治さん(民主党)

成宮真理子さん(共産党)

公明党京都府本部

社民党京都府本部

(若干の変更アリ)

最終報告宣伝：

場所：三条京阪

時間：午後7時半

宣伝には、京生連といって生活と健康を守るため活動されている市民団体の方が参加してください。

この行動に参加してみたいという方は、京都総評が snaga@labor.or.jp にご連絡ください。